

巻 頭 言

岡山大学算数・数学教育学会への参加や会誌への投稿を熱心に取り組み、学会の発展に寄与しているみなさんへ感謝申し上げます。

さて、定年を前に、私自身の人生を振り返ってみますと、人との出会いは、大切であると思つづくと思います。大変お世話になっている黒崎東洋郎先生と私は、昭和45年度入学の同期生であり、数学研究室の同門です。大学時代は、卒論を一緒に研究した仲間でもあります。

先生が、附属小学校時代の研究発表会に度々参加させてもらいました。実は、新採用の時、「算数をしたい。」と校長にお願いしたら、「体が動く若い間は、体育をした方がいい。」と言われ、右も左も分からない私に体育主任を命じました。体育もやりがいがありました。算数がしたいという思いも強くありました。ちょうどその頃、黒崎先生が附属小学校に勤務するようになって、研究会に参加しやすくなったこともあり、学会のメンバーにも出会うことができました。当時、問題解決学習について研究していましたが、多様な考えを出し合い、考えを絞っていると、1時間の授業の中に収められないことが多く、試行錯誤していたことを思い出します。

黒崎先生が附属小学校を転勤してからは、御無沙汰することが多くなりましたが、7年前井原市に3年勤務する間、再び黒崎先生に指導を仰ぐ縁がありました。そして、4年前から倉敷市に再び勤務するようになってからも、倉敷市小学校教育研究会算数部会に助言を受け続けています。

こういった縁もあり、岡山大学算数・数学教育学会へ誘われました。そして、勉強する機会を得て、実践研究発表や協議に参加し、熱心さに感動を受け、また、優れた人に多く出会いました。その頃から、倉敷にも優れた人を育てたいという思いと気軽に分からないところを尋ねる機会を作りたいという思いが増しました。2年前に黒崎先生の尽力により、夢であった倉敷算数の会を立ち上げることができました。その後も毎月第1土曜日の午前中に岡山から多くの先生においでいただき助言していただいています。倉敷の熱心な参加者も今年は30名から多い時は50名くらいと知名度が出てきています。黒崎先生を始め、学会のメンバーの福田先生、深井先生、杉能先生、鈴木先生、片山先生、新井先生等には特に休日にもかかわらず快く引き受けていただき感謝しています。これも出会いがあったことのよさだと思っています。

倉敷市では、学力向上を目指し、授業改善するために、「授業力アップ支援事業」を市内全校を対象に5年計画で実施しています。本校では、本年度指定を受け、昨年度に引き続き、黒崎先生に授業の支援をしていただいています。力不足と研究不足でなかなか目指すところに向かわないのが現状です。今、一目で算数の授業になっていると分かる授業になればと悪戦苦闘しているところです。昨年度は、演算決定を狙っているのに教師が「かけ算を使って計算しよう。」と言ってしまうような授業もありました。その後は、本時で何に気付け何かが分かればいいのかを確認しながら（例えば、比較する場合、直接比較と間接比較がありますが、間接比較においては、間接比較する両方に共通する単位物のよさに気付けさせる等）教材研究をしています。パピルスの実践研究論文や研究論文を参考にさせていただきながらこれからも研究していきたいと思っています。

この会誌が、多くの研究同人の役に立っていることに誇りをもち、これからも会員同士さらに研究を深めていくことができることを願っています。